



同和問題啓発強調月間

▶絆の大切さについて学習

7月23日、「おばあちゃんとヒューマノイドとぼくら」と題して、劇団宮若レインボーカンパニーを講師にむかえ、講演会が行われました。この講演会は、人権問題に関する正しい理解と認識を深めるためのものです。今回は、人と人の絆や家族との絆について改めて考えさせられる演劇だったのではないのでしょうか。



未来のママはがんばりました

▶中学生による赤ちゃんふれあい体験学習

乳幼児とのふれあいを通して、命の尊さや子どもの成長を見守る親の喜びや責任を学ぶため、中学生による「赤ちゃんふれあい体験学習」が4か月健診の8月9日に行われました。夏休み中にもかかわらず、鞍手北中学校3年生の生徒2人と中学1年生1人がママ役に挑戦しました。最初はこわごわだった生徒たちも、時間が経つにつれてママ役が板についていました。



コミュニティ助成事業

▶宝くじの収益が地域活動に



中山本村区と木月区の自治会では、(財)自治総合センターの宝くじの助成金による「平成24年度コミュニティ助成事業」で地域活動のための備品を購入しました。中山本村区では、テントやベンチ、子どもたちが遊ぶ竹馬などを購入、木月区では、地域の祭りで使う太鼓や法被などを購入。両区長とも「地域の活動の輪を広げ、さらに活発にしていきたい」と話してくれました。いずれも地域の親睦と発展のため活用されることでしょう。このように宝くじの収益の一部は地域活動に役立てられています。



救命ボート講習会

▶命の尊さを学びました

7月29日に室木小学校で遊びの森くらぶ主催の救命イカダの実演指導が行われました。参加者は室木小学校児童とその保護や地域の人47人。膨張式救命イカダは、船が転覆した時などの人命救助に使用されるもので、今回、その膨張式イカダを利用して水遊びの危険性などについて学びました。最初はカプセル状のイカダが見る見るうちに水の上で膨らんでいくのを目の当たりにした参加者たちはびっくり。実際に救命イカダに乗り込み、救助の方法を学んだり水遊びをしたりと楽しい時間を過ごしました。



